

靴の歴史散歩 100

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

前号で、銀座サエグサさん所蔵の『鞆絵屋本店の銅版画』を紹介させていただいたが、紙面の都合で已むを得ない縮小もあり、ルーペを持ってしても、詳細は読み取れなかったかと思っている。その銅版画上部余白に、本店を構成する洋傘、洋品、鞆、靴四店舗の広告が載っていたので、靴店の項だけでも転記しておきたい。

《各店販売之広告》

「靴ノ需用ニ於テ益繁ヲ加ヘタルニモ係ワラズ、尚粗悪ナル製靴ノ多キタメ、殊更ニ注文ノ煩ヲナサシムルハ、実ニ当業者ノ罪ト云フベキナリ。故ニ弊店製造場ニ於テハ、仏国ヨリ直輸入ノ革ヲ用ヒ、大小各種男女共、殆ド幾百種ヲ備置ケバ、別段注文ノ煩ナク、直チニ適意ノ合格品ヲ得ラルベシ〈鞆絵屋靴店〉」とある。

当時の注文靴全盛時代に、あえて既製靴で販売促進を図るところは、いかにも時代の先駆者らしい発想である。

各店の広告に続いて「右掲グル所ハ、イズレモ弊店ノ販売スル物ニシテ、ソノ製造ト販売トニ関スル注意ハ、決シテ一日モ忘却セズ、ソノ品質ノ高尚ト価値ノ誠実ナル事ハ、従来弊店ガ大方ノ好評ヲ博シタルヲ以テモ知ルベキナリ。願ワクバ江湖ノ諸君、将来ニ於テ尚幾層倍ノ愛顧ヲ賜ランコトヲ」と、古風に口上は結んでいる。

鞆絵屋本店の関連資料で、明治30年代(1897-)に発行されたと思われる『商品型録』(タテ22cm×ヨコ15.5cm12頁)がある。表紙は、すでに鞆絵屋の顔になっている銀座3丁

目の第三支店(旧桜組銀座出張店)の写真だが、その表紙裏に、モダンな洋風建築に衣更えした本店が載っていたので驚いた。こういう改修を、看板建築というそうだが、見事な変身である。(写真参照)紙質が悪い上に印刷も良くないので、鮮明さに欠けるが、ぜひ前号の土蔵造り本店の写真と見比べていただきたい。

この時代の店頭写真を見ると、機動力を誇示するのか、流行し始めた自転車を書し込んでいる例が多い。鞆絵屋の店先にでも、3、4台の自転車が仲間入りしている。写真左隅には、お抱え人力車か客待ちなのか、笠を被った車夫まで記念撮影している。もっと鮮明な写真なら、色々と会話も弾むのだが残念である。

それにしても、店先の道路は何とも凄じい。雨上がりなのか、車馬の轍でまるで畝の畝の様である。歩くのも難儀、そして靴も傷むだろうなあ、と思ったところで、「あっ、発想がやっぱり靴屋だ」と思った。

